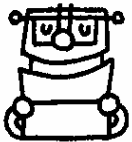


小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /
人とかんきょう / 理解シート

海洋おせんって、どういうことなの



タンカーの事故で流れ出た石油や、工場のはい水などが、海をよごし、たくさんの生物に害をあたえていることさ。

石油タンカーの事故で、多くの生き物が死ぬ

産業活動がさかんになるほど、タンカーなどの船の行き来もふえ、事故で大量の石油が流れ出すようなこともふえました。石油は軽いので、水面にういて広いはんに広がり、石油のまくが、空気が海水にとけこむのや、水が蒸発するのをじゃまします。そのため、水中の生き物は酸素不足になり、さらに、水中に散らばった石油に混じった有害な物を体内にためこんで、成長などが悪くなります。また、石油は、いつまでも分解されずに残っているため、やっかいなのです。

水面近くでくらす水鳥などは、石油まみれになって羽根をかわかすことができず、飛ぶこともえさをとることもできなくなって、死んでしまいます。

石油まみれになった海岸の岩や砂地では、海そうや貝なども死んでしまいます。

自然をよごすと、自分の体に害が返ってくる

海辺近くの工場のはい水や、川が運ぶ生活はい水にふくまれている農薬、殺虫剤、中性洗剤、水銀などの有害なものが、海にたえず入ってきています。

これらは、分解されにくい性質のため、いつまでも毒性をもったまま残って、海の生物の体にためられていきます。そして、貝 貝を食べる小さい魚 小魚を食べる大きな魚 人間という順で、食物のつながり（食物連鎖）から、有害なものが人間の体内にもたまっていきます。このため、ある地方のたくさんの人がひどい病気になったこともあります。

地球上の生き物は、つながり合って生きているから、自然をよごさないようにしないと、自分の体に害になって返ってくるのです。

身のまわりの水、空気などは、みんな自分の体とつながりがあるのね。

